

三岸好太郎のアトリエ

三岸好太郎（1903-1934）は画家で、31年の短い生涯の中で独創的な作品を次々と発表し、天才と称されたひとです。札幌には三岸好太郎美術館もありますので、ご存じの方も多いでしょう。札幌生まれですが、自分の出身地は「厚田村ルーラン」だと言っていました。兄は厚田出身の作家・子母澤寛でしたから、厚田に強い関心と愛着があったのでしょう。

その好太郎がデザインしたアトリエが東京にあります。住宅地の中に建つ三岸アトリエは、白壁のちよつとモダンな住宅に見えます。ドイツのバウハウスで学んだ数少ない建築家である山脇



巖が設計したこのアトリエには、絵を描く画室とそれに続く応接室、普段生活する居室、バスルームなどがありました。

画室は、吹き抜けになった壁や天井がわずかに灰色を帯びた白色に塗られており、明るく、しかし絵の色彩に余計な影響を与えない空間となっています。

最も印象的なのは2階に上がる鉄の螺旋階段です。横の壁は全面ガラスになっており、外からも螺旋階段を見ることが出来ます。三岸アトリエは壁やドアの色、把手のデザインなど二つにこだわりのあります。しかし、三岸好太郎自身はアトリエの完成を待たず、昭和9（1934）年に急死しました。完成後、妻とこれも有名な画家となった三岸節子が家族とともに暮らしました。

現在、三岸アトリエは国の登録有形文化財となっており、普段は貸しスペースとして好太郎のお孫さんが運営されています。モダンな雰囲気から雑誌の撮影や、最近ではコスプレの撮影も少なくないようです。イベントで使っていない時であれば見学のみも可能とのことですので、東京にお出掛けの際は立ち寄られてはいかがでしょうか。ただし、確認をお忘れなく。

（工藤義衛）

「三岸アトリエ」

毎月第4木曜13時から一般公開

場 所 東京都中野区上鷲宮2丁目

問合せ ☎090・5519・7921（山本さん）

✉aiko@mtf.biglobe.ne.jp

HP http://www.leia.biz/atelier/

石狩市学芸員
工藤義衛 Tomoe Kudo

専門分野は考古学と風俗史。石狩独特の文化を研究する一環で石狩の食を代表する「石狩鍋」の歴史やルーツについても調査を行う。



■文化財課 いしかり砂丘の風資料館 ☎62・3711

ERIS 「いしかり博物誌」は、えりすいしかりネットテレビ（http://www.i-eris.tv/）でもご覧いただけます。